

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	国立市立国立第五小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	3	3	3	2	19	27
児童数	74	101	103	90	84	107	13	572	

研究の概要

1. 研究主題

基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数(学力の基本となる教科であり、系統性が明確で、理解の充実・徹底を図ることが必要な教科であるため)
--

(2) 年次ごとの計画

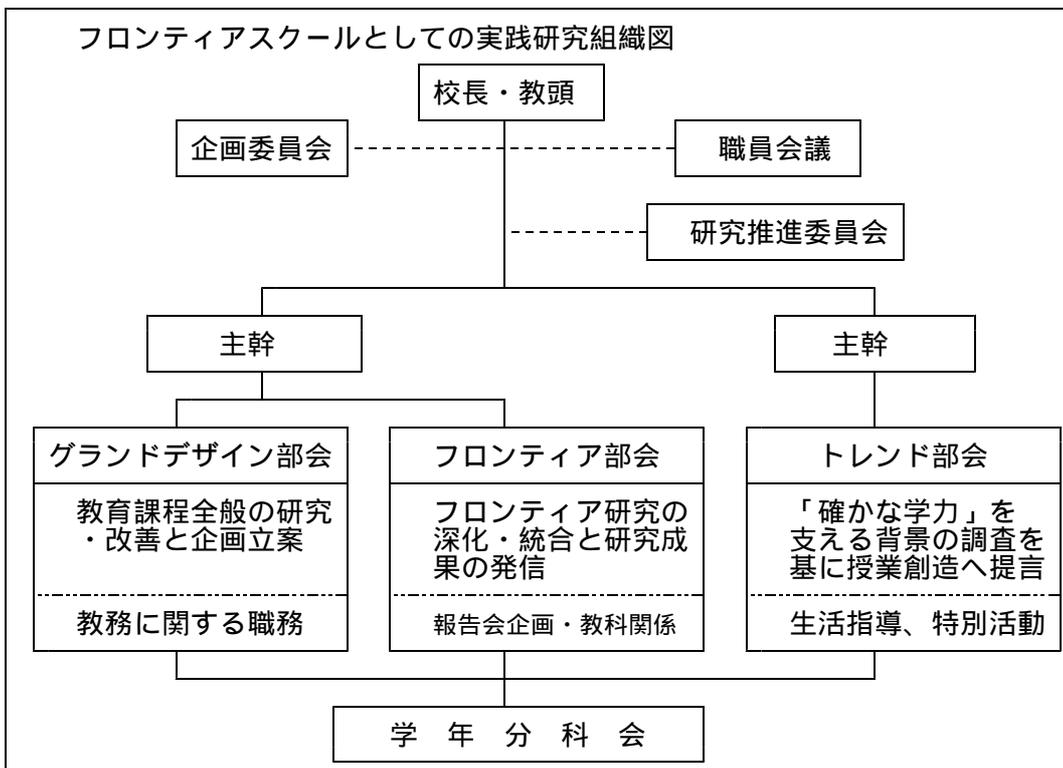
平成14年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究 - 少人数指導による個に応じた指導の工夫 -</p> <p>研究の見通し(仮説) ・少人数指導による個に応じた指導を工夫することによって、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図ることができる</p> <p>研究の内容・方法 ・研究推進委員会による研究の企画と提案</p> <p>・3研究部会による研究の深化と統合 (3研究部会とは、グランド・デザイン部会、フロンティア部会、トレンド部会の3つである。これらの部会の任務は、研究を各々の部会が受け持つ分野について創造的に深めるとともに、3部会が常に連携・統合を図りながら企画・提案することである)</p> <p>・7研究分科会による授業研究 (7研究分科会とは、第1学年分科会、第2学年分科会、第3学年分科会、第4学年分科会、第5学年分科会、第6学年分科会、つくし学級分科会の7つの学年授業実践分科会を指す。この7研究分科会は、研究部会からの提案を受けて、「個に応じたきめ細かな指導」を授業実践で検証していく)</p> <p>・研究全体会による研究内容の共通理解と検討・評価</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究 - 少人数指導による個に応じた指導の工夫 -</p> <p>研究の見通し ・少人数指導による個に応じた指導を工夫することによって、基礎的・</p>
--------	--

平成15年度	<p>基本的な学力の定着と向上を図ることができる</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間研究計画に従った研究の進行 (研究推進委員会による企画に代えて、年間研究計画を作成・活用) ・3研究部会による研究の深化と統合 (具体的には、研究の理論構築、少人数指導の指導形態の工夫、児童の実態把握の工夫等) ・7研究分科会による授業研究 ・研究全体会による研究内容の共通理解と検討・評価 ・指導と評価の一体化 ・授業改善につながる教材の開発 (発展的内容や補充的内容にかかわる教材の開発は今後の課題)
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究 - 少人数指導による個に応じた指導の工夫 -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導による個に応じた指導を工夫することによって、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図ることができる <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会による研究の企画と提案(年間研究計画活用) ・3研究部会による研究の深化と統合 ・7研究分科会による授業研究 ・研究全体会による研究内容の共通理解と検討・評価 ・指導と評価の一体化 ・授業力の研究と実践 ・発展的内容や補充的内容にかかわる教材の開発等 ・一部教科担任制にかかわる研究開発
--------	---

(3) 研究推進体制



学校として研究体制上、特に工夫している点
学校運営の中心に3部会 - グランドデザイン部会、フロンティア部会、トレンド部会 - を配し、部会ごとに研究にかかわるテーマを追究しながら、連携し協力して特色ある研究を創り上げる体制を工夫。

主幹 は、グランドデザイン部会とフロンティア部会を統括し、主幹 は、トレンド部会を統括する。主幹 の指揮のもと、グランドデザイン部会は、新教育課程全般の研究・改善と企画立案を行い、フロンティア部会は、学力向上フロンティア研究を深化・統合し、研究成果を発信する。また、主幹 の指揮のもと、トレンド部会は、「確かな学力」を支える背景の調査と理論研究をもとに、よりよい授業創造への提言を行う仕組み。

主幹の統括する3つの部会は、それぞれ独自に研究の追究を行う任務と同時に、通常の校務分掌も併せて行う任務をもつ。部会の中に、研究の時間と分掌の時間を組み合わせることによって、無駄な時間を省き効率化を図る。その結果、年15回の研究全体会と21回の研究部会の実施が可能となる。

3部会の独自の創造的活動と、3部会の連携・協力があって初めて、骨太のフロンティア研究が実現できる。

昨年度から改善されたところ

・フロンティア研究の推進にあたって、昨年度新しく策定した実践研究組織図の機能を教職員が理解・活用し、研究が深められつつある。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果

算数授業時における学習意欲の向上。また、自ら考え、その考えを友達の前で発表し、深めていこうとする姿勢をもつ児童が、増えていること。

全学年が合計8回の研究授業、及び報告会にて全クラス公開授業を行い、授業実践を通じた授業改善が図られたこと。

1～2年生(計5クラス)は、大学生6名の算数ティーチング・アシスタントを活用した指導法の工夫、3～6年生(計12クラス)は、少人数担当と少人数ティーチング・アシスタント2名を活用した少人数学習の指導法の工夫を行ったこと。

確かな学力を構成する4観点を、本校算数科の目指す児童像の4視点(楽しむ、創る、使う、わかる)に凝縮し、4視点と評価を連動させることにより、毎時間の授業のねらいを明確にした。それによって、指導と評価の一体化を図り、確かな学力をはぐくむ授業を構想し、授業実践に踏み出したこと。

少人数学習のコースを児童の自己選択方式にし、意欲と基礎学力の向上を図る体制を整備したこと。

全学年、全単元の教材キットを作成し、全校で共有し、授業に活用したこと。

児童の実態を把握する独自の方法をつくり、授業に活用したこと。

児童の自己評価能力を高めるための方法をつくりだし(振り返りカード)、活用したこと。

ほぼ月1回のペースで、授業研究や研究協議会を地域・保護者に全面公開することにより、教員同士が切磋琢磨するとともに、毎月の研究便りや掲示板等で研究内容を発信し、地域・保護者への説明責任を果たしたこと。

実践研究組織図の機能が実践で活用され、研究が深まったこと。

2. 今後の課題

課題

- ・基礎的・基本的な学力をさらに定着・向上させるための個に応じた効果的な少人数指導の理論を明確にし、実践で実証するとともに、ティーチング・アシスタントや実態調査を学力向上のために、さらに有効に活用する方法を開発すること。
- ・算数好きの児童を育てるための学習集団の特質を、理論と実践で明確にすること。
- ・授業力を高めるための理論構築と実践を行うこと。
- ・算数科での研究の成果を他教科へ関連付け、研究成果をひろげること。
- ・一部教科担任制に関する研究と実践を行うこと。

学力等把握のための学校としての取組

「確かな学力」を支える背景の調査とその理論研究を基に、よりよい授業創造へ向けて提言を行うために、次の取組を実施

(1) <意識調査>

- ・目的・・・児童の実態と変容を把握することにより、児童の学習意欲を引き出し高めること、及び学力向上の達成状況を検証し、指導に生かすこと
- ・実施内容・・・児童の「学習意欲」「成績観」「学習行動」「生活習慣」についての意識調査
- ・実施時期・・・少人数学習実施学年（第3・4・5・6学年）は、5月と11月に実施
 - ・T・A活用学年（1・2学年）年2回、発達段階を考慮した調査方法で実施

(2) <学力の到達に関する評価方法>

- ・目的・・・「確かな学力」の到達状況を評価し指導に生かすこと
- ・実施内容・・・学力3観点「知識・理解」「表現・処理」「数学的な考え方」についてのテスト
 - ・単元毎に「知識・理解」「表現・処理」「数学的な考え方」を見取るための個人カードを集積すること
- ・実施時期・・・テストは5月実施、個人カードは単元終了時に実施

(3) <授業評価>

- ・目的・・・授業分析の結果を、より質の高い授業と指導に生かす
- ・実施内容・・・児童の実態に即した学習の展開、授業構成に沿った授業の展開、の2つの視点からの授業分析
- ・実施時期・・・研究授業時等

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会の開催実績（日時、場所、テーマ、対象）

- (1) 平成15年 5月20日 13:30～16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第5学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (2) 平成15年 6月24日 13:30～16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第4学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象

- (3) 平成15年 7月9日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第3学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (4) 平成15年 9月24日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(つくし学級研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (5) 平成15年10月17日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第2学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (6) 平成15年10月29日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第1学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (7) 平成15年11月19日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(第6学年研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
- (8) 平成15年12月16日 13:30 ~ 16:00 国立第五小学校
「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
(講師による第5学年1組提案研究授業)
保護者・地域、地区全教職員対象
2. 学力向上フロンティア事業地区連絡協議会の開催実績
日時・・・平成15年 6月20日午後 国立第五小学校
3. 研究報告会(2年次)の開催実績
日時・・・平成16年 1月27日(火) 9:00 ~ 16:00
場所・・・国立第五小学校、くにたち市民芸術小ホール
テーマ・・・「基礎的・基本的な学力の定着と向上を図るための実践的研究」
研究授業公開と研究報告
- シンポジウム「授業力を高める」
(シンポジスト) 寺崎 千秋 練馬区立光和小学校長
堀竹 充 国立市教育委員会学校指導課長
滝井 章 世田谷区立八幡小教諭
(コーディネーター) 大橋 明 東京都多摩教育事務所指導主事
- 対象・・・保護者・地域、地区協議会委員、全国の教職員・フロンティア
事業関係者・教育関係者
4. 研究成果のパンフレット作成等の工夫の実績及び今後の予定
- (1) 研究紀要作成
・1年間の研究成果を12ページの紀要にまとめ、保護者、地域、研究報告会参加者等に配布
- (2) 指導案集作成
・全クラス授業公開時(2年次研究報告会)の指導案を指導案集としてまとめ、研究報告会参加者等に配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無